

まちの話題

▶先ほど湖東の「BASE FOR REST」でアメリカのドキュメンタリー映画『ダムネーション』(http://damnationfilm.net/)の開催があった。薪ストーブが焚かれた店内にオーガニックドリンクやフードを並べたマーケットが開かれ老若男女が集った▶映画は奥深い映像で自然を映し、まっすぐでクレイジーな人たちが思い思いの姿を見せていて魅力的。私たちの暮らしにはたして「ダム」は必要か?人が想いをめぐらす間にもアメリカの川では春になれば生まれ故郷に戻ろうとシャケやニジマス達が遡上を試みる。川の途中に飛び上がろうとしても乗り越えられないダムを人が作っても魚達は帰ろうとする。そして叶わず死んでゆく▶川に自由を!と唱う環境運動によりダムが撤去された川に魚達が遡上し再び産卵する。生きてゆくために必要なことを魚たちはあきらめずくり返す▶アメリカのダムは水力発電利用のためものが多いが、日本のダムは治水や利水など多目的に建設されていることが多く少し事情が違うかもしれないが、生きていくために本当に必要なダムなのかと問うために「知ること」は私たちの力になるだろう。(ななつ)

びわこおっぱい塾info

おっぱい塾は、母乳育児を望む母親たちが集う安心スペースとして、2004年から始まり、現在滋賀県内の9カ所で開催されています。どうぞ気軽に遊びに来てね~!

総合案内ブログ 「びわこおっぱい塾」

<http://biwakooppaijuku.blog70.fc2.com/>

<近江八幡おっぱい塾『楽楽』より>

毎月第3水曜10時~12時、アクア隣のことしん2階で開催中。おっぱい塾は、話したいことや聞きたいこと不安や悩みを話し合っ解消出来る場所です。楽しく幸せな母乳育児を応援してくれる先輩母ちゃんや助産婦さんの話も聞けますよ♪

あまいろだより(天色便り)

あまいろ探偵団、走る!手づくり市民メディア
第21号 特集:水害について『地先の安全度』マップと、歩く。
発行日/2015年1月15日
編集/あまいろ探偵団
(綾牧生・岸田知之・北岡七夏・きむきかん・中野和子・藤井朋子)

発行/特定非営利活動法人碧いびわ湖
~大切なことを他人任せにしない。
自分たちで力をあわせてつくる~
〒521-1311滋賀県近江八幡市安土町下豊浦3番地
TEL 0748-46-4551 FAX 0748-46-4550
Eメール info@aoibiwako.org
<http://aoibiwako.shiga-saku.net/>



あまいろだより

水害について『地先の安全度』マップと、歩く。

天色便り
あまいろ探偵団、走る!
手づくり市民メディア
第21号 2015.1.15



子育て広場、やっています♪

~子どもの野外遊び×親のおしゃべり~
*毎月第2・4月曜日
*守山の目田川or栗東のたまてばやしにて
基本第2月曜はたまてばやしにて、第4月曜は目田川にて行います。但し、天候や諸事情により変更になることがありますので、碧いびわ湖のブログにてご確認ください。か、お問合せください。

表紙タイトル/岸田知之

*kikito びわ湖の森を元気にするkikitoペーパーを
biwako-no-mori 使用しています(びわ湖の森の間伐材活用)

暮らしのコラム

みなさんはご自宅の水害リスクをご存知ですか?また、ご自身やご家族の通園・通学、通勤先の水害リスクはいかがでしょうか?

一度、想像してみてください。大雨が降って、あたり一面が濁った水で覆われた時、ご自身やご家族は無事に家に帰ることや避難所に集まることはできるでしょうか?

浸水した時には、川や水路と道路の境目は分かりません。下水道のマンホールの蓋が外れることもよくあります。縁石も見えなくなり、少しの移動も危険を伴います。避難中に水路やマンホールに落ちて命を失う事例が過去にいくつも報告されています。

さらに近年、気候変動の影響などもあり、ゲリラ豪雨と呼ばれる局所的集中豪雨の増加や、大型台風増加などが指摘されています。一昨年9月の台風18号による水害や、昨年の広島市での土砂災害などは記憶に新しいところです。日本中どこでも、大雨による災害が起こりやすくなってきているのです。河川工事やダム建設が進められ、昔に比べて頻りに浸水することは減ったかも知れませんが、それでも防ぎきれない洪水はいつでも起こり得るのです。逆に浸水が減ったことによって、人びとが水害に備える力、地域防災力は昔に比べて弱くなっているとも言われています。災害は忘れた頃にやってくる。心に刻んでおきたい大切な言葉です。

2001年ごろから、洪水時に予想される浸水の深さや避難場所などを示したハザードマップが、日本全国の市町村で配布されるようになりました。洪水ハザードマップの基礎情報は、国や都道府県が作成する「○○川浸水想定区域図」と言われるもので、ある川からの氾濫によって想定される浸水深

きっかけは「地先の安全度」

瀧 健太郎

が示された図面です。最近では、下水道(雨水)やため池などからの氾濫も対象にした図面が、それぞれの施設を管理する団体から公表されています。

これらの図面は川ごと、水路ごと、ため池ごとに別々に作成されることが多く、「どのような雨のときにどの場所からどれくらい浸水するのか」といった統合的な情報ではありません。しかし、水害は同時多発です。そして、周りの河川・水路の排水能力や地形などは地域地域で異なりますから、浸水の進行にもそれぞれの特徴があるはずで、「まずはあそこの道路が冠水して、次にあそこの水路から浸水が続いて、そのうちにこちらの川からの水が流れ込んでくる」といった具合です。このような浸水パターンが分かれば、より具体的に水害に備えることができるようになります。

2006年9月、滋賀県庁内に流域治水政策室が設置されました。河川工事やダム建設だけではなく、流域でのさまざまな水害対策を検討することを目的とした部署です。流域治水政策室は、これまでバラバラに公表されていた浸水想定区域図の問題を解決しようと試みました。その結果、生まれたのが「地先の安全度」マップです。国が管理している川のデータ、県が管理している川のデータ、市町が管理している普通河川や下水道(雨水)のデータ、土地改良区が管理している農業用水路のデータやポンプ場のデータを県内全域で集めて、雨の強さごとに県内各地の浸水の深さを予測してマップにしました。これほどの広範囲でこのようなマップを作成したのは、日本全国で滋賀県が初めてです。技術開発やデータの収集、解析作業などに5年以上かかりましたが、2012年9月~2013年8月にかけて市町

ごとに公開され、今では滋賀県庁のウェブサイトでも誰でも見ることができます。

「地先の安全度」マップの登場により、自分の家の水害リスクを誰でも知れるようになりました。これからは、「雨がこれくらい降れば、あっちの川は大丈夫だけど、こっちの水路が危ないな」と自ら備えられます。また、家を買ったり、建て替えたりするときの参考にもなります。どの川や水路の整備をすれば、自分の地域の安全性が高まるのかも「見える化」されます。このように、「地先の安全度」マップは「自助」「共助」「公助」が力をあわせて水害に備えるための基礎情報になるものです。そして、「地先の安全度」マップを利用した様々な対策をまとめたものが、2014年3月に制定された「滋賀県流域治水条例」です。危険性の高い場所で無防備なまま開発したり家を立てることを禁止したり、「地先の安全度」を宅地・建物の売買時に伝えることを義務付けたりする内容が盛り込まれています。

また、「地先の安全度」マップを使って地域防災力を高める取り組みは、県内各地で始まっています。近江八幡市立馬淵小学校では、総合学習の時間を利用して「子どもハザードマップ」を作成しています。子どもたちが「地先の安全度」マップを手に自分たちの家から避難所となる学校までの道のりを歩き、想像力を働かせながら柵のない水路



馬淵小学校での「地先の安全度」マップ作りの様子

やマンホールなど、避難時に危険な場所を地図に書き込んでいきます。子どもたちは地区別に編成されたグループごとにハザードマップを作りあげ、グループ発表で互いに成果を報告し合います。そして、子どもたちは手作りのハザードマップを自宅に持ち帰り、お家のひとたちにお披露目します。普段は仕事や行事で忙しく防災のことをじっくり考える暇のない大人も、子どもたちの話には耳を傾けます。いざ水害にあったとき、子どもたちは自分たちが身の安全を守れるだけではなく、地域の防災の専門家として、安全な避難の指導者にもなってくれます。そして、子どもは10年後の大人です。子どもたちを中心に未来に向けて地域防災力を育くむ素敵な取り組みが始まっています。

きっかけは「地先の安全度」という考え方。ここからみんなで水害に備えることができるようになります。滋賀県発の「地先の安全度」マップは、今、日本全国から注目されています。

「地先の安全度」マップの使い方を学びたいみなさんは、ぜひ滋賀県流域政策局に相談してみてください。みなさんの地域それぞれの状況にあわせた出前講座をしてくれます。もちろん無料です。

瀧健太郎...碧いびわ湖 理事。滋賀県庁では河川政策・流域治水政策に長年携わる。流域治水政策室勤務時(2007.4-2012.3)に「地先の安全度」の考え方を構想し、滋賀県流域治水基本方針を策定。流域治水と水辺の小さな自然再生や流域治水がライフワーク。

【「地先の安全度」マップ・出前講座の問合せ】
滋賀県 流域政策局 流域治水政策室
TEL: 077-528-4291
Email: ruyuki@pref.shiga.lg.jp
【「地先の安全度」マップウェブサイト】
http://www.pref.shiga.lg.jp/h/ryuiki/tisakinoa_nzendo/top_page.html

ひとつぶてんとう園のお母ちゃんと子どもたちが

『地先の安全度』マップと、歩く。

かずこ／今回の企画したきっかけは、碧いびわ湖の理事に滋賀県の『地先の安全度マップ』をつくった瀧さんという県職員の方(「暮らしのコラム」参照)がいてね、彼がこれを活用してほしいと。それで今、県職員が小学校とかに行つてこのマップを基に全五回の出前講座をやつて、一回目は学校の近くの川で川遊びして、こういう葉っぱがあるとこは浅いんだよ深いんだよという話から始めて、それ



こんなふうには歩きました。

出前講座のはじまりは、ひとつぶてんとう園の基地テントから。『地先の安全度』マップをみながら「想定外の雨という最悪の場合に、ここはたくさん雨が降るとなると北の庄沢から水が溢れてきて、2m まで浸水する可能性ありの場所です」と今日の講座の先生は県職員の方。出発前に水が入ったバケツが登場。そこに泥を入れてかき回す。泥を入れる前はバケツのそこは見えていたのに、泥を入れてかき回すと、当然だけど泥水ではバケツの底が見なくなる！雨が降って道路が冠水するとね、いつも歩く道なのに、下に何があるか見えなくなるんだよー。さあ、近くを歩いてみよう。八幡山を目指して出発！基地テントのある畑から歩道が上がっていきます。「ここら辺は、北の庄沢からの水が溢れて畑は水浸し、道路の上まで冠水すると、ほら、道路と畑の境がどこにあるのか分からない。こういうところを歩くときはとても危険。間違つて畑のところへ足を踏み入れたら溺れてしまう・・・。」こわつ。



先の歩道には、小さな川が斜めに横切ります。ここは昔の船溜まり。昔は田舟で田んぼに行きここに舟を泊めていました。一番低い場所なので水がここに全部たまりまます。その先のいつも遊ぶ公園はこの 8 月に降った雨で水没しました。その写真を見て「ひえ〜」。公園の向こうにある昔からあるお家や神社は、ちゃんと石でかさ上げされています。お堂は特別高く床が作っており、昔から村の避難場所になってました。公園の前の道路にはマンホールがあります。浸水時には水が下からわき上がり、マンホールのフタは簡単にはずれます。泥水で下が見えず蓋のはずれると気づくことはできません。さいごに八幡山の麓につきました。ここは山の急斜面がくずれれる土砂崩れのおそれがあります。

★水害のおそれのある時に避難する際は、1カサ、2クツ、3ヒモ、が三種の神器となります。1カサは、さすためではありません。泥水の中を歩くには、これをツンツンと道路にさして安全を確かめます。2クツ、長靴は×。長靴より上に水が溢れた時に長靴に水が入って歩けなくなるからです。3ヒモは流されないように子どもをつなぎます。日本は自然豊かなところ。と同時に自然災害の多い国です。自然災害が多いからこそ、自然が豊かで、その再生力も強いのです。日本に住むということは、自然と共に生活し、災害と一緒に生きるということなのです。

県のホームページで、あなたの自宅付近の『地先の安全度』マップが見られます！
http://www.pref.shiga.lg.jp/h/ryuiki/tisakinoanzendo/top_page.html

から今日みたいな話をしてるんだって話を聞いて。これはぜひ紹介したいと思つて、「ひとつぶてんとう園」さんに声をかけて頂きました。どうでしたか？

せいこ／自分の住んでる東近江市でも、自分の家がどういうエリアっていうのは紙面でお知らせが来たんだけど、実際それがどういう意味かは自分で目にしないとわからないことやつてのが今日は実感できました。例えば二メートルって高さもわかっているつもりでも、実際棒の高さで見るとよくわかつたし、二メートルになるとガードレールも沈んでしまふしわからないんだなって。歩いて体験してみないと、危険意識って自分のどこに染みつかないんだなと思つて。

ゆうこ／この安全度マップはホームページでも見れるって言つたけれど、実際見たとしても「ふ〜ん」ってだけやつたと思う。実際にあの神社のところまで細かく歩いて説明してもらつて、ほんまにちよつとの坂やつたけど、ここは水路やつたから地盤が低いとか埋め立てたとか、ほんの少しのことで変わるっていうのがわかつて。また自分の家の周辺もどこを見たいいんかポイントがわかつたような気がします。

けいこ／私は去年引越してきたんですけど、ウチの夫が今住んでるところの雨や土砂の状況がどうかっていう資料を印刷して見せてくれて話は聞いてたけども、まだちよつとひとごとだった。今日聞いてほんとにひとごとじゃないなって！で、東京とか千葉じゃ水路脇の柵がちゃんとあつたり、都会は整備されている。滋賀に来てうっかり子どもが落ちそうところが山ほどあつて驚いた。去年こつちに来て、雪が降つたときに溝にはまってタイヤがパンクしたの！えらいこつちやと思つて！東京の感覚だったらそこが溝だなんてまさかなんだけど、もしこつちで雪が降つたらとか土砂がきたらつて、自分で一個一個情報を取つていくしか

ないなあと思つて。だから帰つたらウチは大丈夫とは思わずに、マンホールとか溝の位置を確認しておきたくなつて思いました。ありがとうございます。聞かなくなつたら私も長靴履いて逃げてたと思つて。

けいこ／スニーカーかな。かずこ／長靴はそれ以上の水がくると足がとられちゃうから。傘もさすんじゃないかって、深さをみたり、水の下の何があるかを確かめるために使うんやね。(★参照)せいこ／マンホール怖いよね。川のある場所って大体わかつててもマンホールはわからへん。かずこ／あと、紐。紐を持って、子どもが流れないように捕まえて？

けいこ／じゃあ、園でやつてるロープワークが活躍するね。一同／そうだね。えみこ／私が住んでるところは蛇砂川のすぐ脇で、幼いころから結構水害が多かつたんです。床下浸水したお家は結構たくさんあつた。川の改修工事があつてだいぶ軽減されてはきてるんですけど、最近の大雨ってちよつと異常な降り方をして、急激に水位が上がつたりすることもあつて。うちは土地がわりよりも低くて、一気に水が流れ込んでくるのが最近見えています。そう直視してみても初めているいる対策をするんですけど、以前やつたら、あの安全度マップが閲覧板で回つてきたとしても、おそろく自分のこととしてはあまり見ないと思つてますよ。で、こつち歩いていたり、私

たちから聞いたりとかすることで、「あ、自分ちにも起こることかもしれない」と思えるんじゃないかなつて。誰かに任すんじゃないやなくて、自分がなんとかしなきゃかんねんとか、こんなことがあつたときに、こつちう風な動きがとれるんやなみたいなことを頭の片隅に

置いといたら、おそろく水害が起こつたときでも対策がとれるやろうしね。行政も「ま、これ配つときやわかるか」みたいな受けとる住民の方も「あくなんか回つてきてたな」っていう人任せになつてしまつと、その分析や調査も生きてこへんし、どんどんこのマップが活躍できるようにできるともつといんちやうかなつて思いました。

「ダム」のかわりに「流域治水政策」を

ねぎやま／ちよつと補足させてもらつと、嘉田さんがダム反対を掲げて知事になつて、ダムの代わりに何をするかといつてやつたのが流域治水政策。国交省とも闘つて、昨年二月に滋賀県流域治水条例ができた。日本に暮らす人々は自然の中で災害の被害に遭いながらも、その経験や知恵のなかでなんとか生きてきたんだけども、これまでは基本的にはダムをつくつて川や堤防を大きくしてその中に水を閉じ込めましよう、その代わり大きな土木事業をやつて、それが一部の人たちにはお商売になつてついで中ずつとききた。それをやめて、地域地域にある伝承や経験を引き継ぎながら、多少被害に遭うかもしれないけどそこは知恵と助け合いでしのいでいしましようつていうのが、おおざつぱにいうと流域治水の考え方。過去に洪水が起つていて地元の人からするとあそこは危ないという土地でも、業者さんが住宅を売りたいがために開発してしまつて役所も人口が増えるからいいと認めてしまつていて、いうところが県内にもいくつあつて。業者さんからしてみたら危険な情報をばらされちゃうと売れへんやんけとなる。反発も大きくなつてかなりリスキーな行政手法なんだけど、嘉田さんが思い切つて舵をきつてやつて。

かずこ／それは、もうこれ以上コンクリートで埋め立てるのはいやつていうのが多分嘉田さんにはあつて。ダムをつくつて治水・利水じゃなくて、川が氾濫してもどかどの程度危ないかがわかつていけば、被害を小さくするための対策をとれる、命は助かるという思

想でつくつたのがこの条例とマップ。でも氾濫して何かあつたらどうするつて言われると川にコンクリートはめなげやいけなみないなところが行政にはあつて。

「住民×行政」でやれること

ねぎやま／だから、行政まかせにしとくと安全に安全にと業者と行政だけでできる政策で、今まで通りに堤防やダムを作りましようつてなつてしまいがち。今日みたいに行政と住民が直に知り合つて話ができるつと、行政の側も私たちはダムを作らないためにこつちやつて住民の方達と一緒にやれるんですつと、反対派の人を説得する力になると思つて。

かずこ／掛け算になつてた？(笑) せつ／これかな(笑) せつ／私、今日来てくれた職員さんがはじめに、「普段は小学生とお母さんを対象にしていて、小さい子どもさんとお母さん方と開催したことがはじめてなので難しい」と言われて腑に落ちなかつた。その辺をもうちよつと柔軟に考えてもらえたら、もつと活用できるんじゃないかなつてすごく感じました。せつ／かきいものがあるのにつて。

ななつ／ほんとに。もつと広く知つてもらえたら大きく変わるよね。そんなやり方も提案できたらいいなと思つた。あと住民側の近寄り方と行政側の近寄り方、それも提案できたらいいですよ。今日の企画はおもしろい掛け算やつたな、と思つた。かずこ／掛け算になつてた？(笑) えみこ／一つ嬉しかつたのは、「日本は自然災害と共生に生きてきたところだ」つて職員さんが言われたこと。行政さんと一般市民にはこつちやう向き合い方もあつて、同じ方向性に向いていけたらベストですよ。ね。そしたら嘉田前知事がお金をかけてつてこれだけ大きな事業も活かされる。

ねぎやま／遠慮なくどんどんしゃべつていったらいいと思つて。結局、命つていうことと、財産がなくなるとつて話とか、自然の話とか、行政の縦割りの中で分別されていることと天秤がけなんだけど、行政は自分とこの部署の価値しか判断できないから、本当は何が一番大事でダムよりはこつちが優先とかを住民が選んでいってあげないといけないんだと思つて。けいこ／部署ごとに一人ずつ出てきて、こども対象にわかりやすく話す機会に、大人も一緒に聞いて面白と思えたりするつていいですよ。かずこ／川も昔から取水するところと排水するところがあつて。取るところははいてい名前前に新がつく、そういうところは天井川なんですつて。とりやすいでしょ。でも氾濫しやすい。昔から、生活のなかに生きることに死ぬことが一緒にあるのが暮らしたつたんだな。えみこ／こどもが今びわこがゴミとか川のこととかを調べる宿題が出たりするんだけど、教育の場でもそんな面白い話が入つたらいいのにな。ねぎやま／面白いことできる気がするんですけどね。僕も栗東のたまてばやしで土木作業を子ども達と一緒にやつてると、ここに雨水タンク置いたから排水路をここにつくつてとか、溝ほつてあつちの水を流せば、あつちはびよびよになるけどぼくらの居場所は大丈夫とか、ミニチュアだけと臨場感が出てくる。小学生でも十分に考えてできるし、大人もこどもと一緒にディスカッションして、その時に土木の専門家が来てくれたりとかすると面白いかな。えみこ／こども水を排水する作業があつたんですけど、溝を掘つたら子どもたちが歩いていって「水通つたよ！」つていう声が聞こえたり。ねぎやま／そういう経験が大事なんですよね。宅地造成された団地で育つてるとこつちやう感覚が全然なく大人になつてくるから、さつちの話も聞くとほつとつて。かずこ／この出前講座は、タダでどこでも来てくれるつて言つてました。「県職員ですから！」つて。近江八幡の自然をフィールド下自主保育活動している